



2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月8日

上場会社名 株式会社 ナック
 コード番号 9788 URL <https://www.nacoo.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉村 寛
 問合せ先責任者 (役職名) ビジネスサポート本部長 (氏名) 川上 裕也
 四半期報告書提出予定日 2019年11月11日 配当支払開始予定日 2019年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

上場取引所 東

TEL 03-3346-2111

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	41,690	10.2	229		277		700	
2019年3月期第2四半期	37,835	0.8	1,204		1,220		999	

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 693百万円 (%) 2019年3月期第2四半期 999百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	31.25	
2019年3月期第2四半期	58.06	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	48,370	18,881	39.0	842.73
2019年3月期	49,626	20,161	40.6	899.84

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 18,881百万円 2019年3月期 20,161百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		8.00		26.00	34.00
2020年3月期		9.00			
2020年3月期(予想)				27.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	100,200	12.4	2,200	8.0	2,150	3.3	1,000	25.3	44.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	24,306,750 株	2019年3月期	24,306,750 株
期末自己株式数	2020年3月期2Q	1,901,533 株	2019年3月期	1,901,481 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	22,405,250 株	2019年3月期2Q	17,214,732 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	12
受注の状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年9月30日)におけるわが国経済は、海外経済の減速を受けて輸出の弱さが続いたものの、国内需要の下支えにより企業収益が底堅く推移し、雇用・所得環境の改善が続いたことなどを背景に緩やかな回復が持続しました。

当社グループの事業領域である小売・サービスでは、雇用・所得環境の改善が続いたものの、消費者物価の上昇によって実質所得が伸び悩み、個人消費は緩やかな持ち直しにとどまりました。

このような中、当社グループでは各事業分野において、新商品の開発・販売、顧客サービスや品質の向上、販売促進活動強化や商圏拡大に積極的に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高41,690百万円(前年同期比10.2%増)、営業損失229百万円(前年同期営業損失1,204百万円)、経常損失277百万円(同経常損失1,220百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失700百万円(同親会社株主に帰属する四半期純損失999百万円)となりました。

事業の種類別セグメント業績は次のとおりです。

各セグメントの営業損益のほかに、各セグメントに帰属しない全社費用等546百万円があります。

〈クリクラ事業〉

宅配水市場は、前年同時期の記録的な猛暑に対して、梅雨の低温多雨な天候不順がマイナスに作用し、またワンウェイ業者を中心とした顧客獲得競争も激しさを増しました。

このような状況の下、クリクラ事業では、全国的な販売促進活動による新規顧客の獲得に努めるとともに、前期より販売を開始した自社製次亜塩素酸水溶液「ZiACO(ジアコ)」のブランド確立・生産キャパシティの増加に取り組みました。

直営部門では、前期物流コスト高騰のためワンウェイ事業から撤退、顧客数が減少しましたが、一世帯あたりのボトル消費量増加による顧客単価上昇や解約率低下などが寄与し、売上高は前年同期比小幅の減少にとどまりました。また、加盟店部門の売上高は、サーバー販売数の増加がボトル販売数の減少を補い、前年同期と同水準(微増)となりました。

営業利益は、直営部門での月額サービス「あんしんサポートパック」による一時的な利益要因が一巡したことなどから、前年同期比減少しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高6,570百万円(前年同期比5.1%減)、営業利益302百万円(同34.1%減)となりました。

〈レンタル事業〉

レンタル事業では、人生100年時代に向けた各事業の需要増加を見据えて、販売網の拡大やサービス体制の強化に取り組みました。

主力のダスキン事業では、ダストコントロール商品部門で地道な営業活動により優良顧客基盤を深耕することに加え、2018年8月に株式会社ダスキンと締結した資本業務提携契約に基づき、家事代行サービスや害虫駆除、花と庭木の管理などのトータルケアサービス部門(包括的な役務サービス提供)の展開に注力し、前年同期比で売上高を伸ばしました。

“with”ブランドによる害虫駆除事業では需要が高まる夏場にかけて全国的な販売促進活動を強化し、また、法人向け定期清掃サービスを提供する株式会社アーネストにおいても、新規顧客獲得に向けた営業活動を展開した結果、ともに前年同期比で売上高が増加しました。

損益面では、全ての事業において売上高が堅調に推移した一方で、ダスキン事業におけるトータルケアサービス部門の新規出店と販売促進体制の強化により販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益は前年同期と同水準となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高7,311百万円(前年同期比2.3%増)、営業利益945百万円(同0.1%減)となりました。

〈建築コンサルティング事業〉

地場建築市場は、慢性的な職人不足や世帯数の減少により、引き続き厳しい市場環境となりましたが、ノウハウ販売部門では、当第2四半期連結累計期間に販売促進活動を強化したことが奏功し、売上高・営業利益とも前年同期比で増加しました。なお、2019年9月にノウハウ商品の新商品開発及び新規事業の共同開発を目的として株式会社SOUSEI Technologyと資本業務提携契約を締結しました。

太陽光発電システムを主とする建築部資材販売部門及び施工も行う株式会社エコ&エコでは、「住宅用」太陽光・蓄電池市場へ販売ターゲットのシフトを行い、補助金制度を活用した新規需要の取り込みに注力した結果、売上総利益率の改善を実現しました。その結果、売上高は前年同期と同水準にとどまった一方、営業利益は増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高2,584百万円(前年同期比6.5%増)、営業利益252百万円(同27.8%増)となりました。

〈住宅事業〉

第2四半期連結累計期間の住宅業界では、国土交通省発表の2019年8月度住宅着工統計で、持ち家が11ヶ月ぶりに減少に転じ、貸家や分譲住宅を含む全体では7月以降、前年同月比で2ヶ月連続の減少となるなど、消費税駆け込み需要の一巡によって弱い動きとなりました。

このような状況の下、株式会社レオハウスでは、注文住宅に加えて、分譲住宅やライフプランに合わせた48プランの企画型住宅の販売を強化し、受注棟数及び売上高の増加に取り組みました。一方で、販売費及び一般管理費の効率的運用と経営資源の適切配分を徹底的に強化しました。その結果、受注数は789棟(前年同期1,007棟)、受注残969棟(同1,317棟)となりました。売上高は、引渡棟数の増加により前年同期比で増加し、損益についても、前期に実行した不採算店の統廃合による減価償却費など固定費が減少したことで、営業損失額は前年同期比で縮小しました。

株式会社ジェイウッドでは、競争激化などで期初受注残が前期初よりも減少したことに加え、期中の受注数も伸び悩み、売上高は前年同期比で減少、営業損失額も拡大しました。

株式会社ケイディアイでは、首都圏に特化した営業戦略を強化し、売上高は前年同期と同水準を維持しましたが、将来を展望した人員増強等により販売促進費が増加したことで営業利益は前年同期比で減少しました。

株式会社国木ハウスでは、一部物件の販売が後ろ倒しになったことで、売上高が前年同期比減少、営業損失額も拡大しました。

株式会社suzukuriでは、異業種との提携を通じたターゲット層の拡大に取り組み、前年同期比で売上高を伸ばし、営業損失も縮小しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高20,494百万円(前年同期比21.6%増)、営業損失1,088百万円(前年同期営業損失2,195百万円、株式会社ケイディアイ、株式会社国木ハウスののれん償却費22百万円を含む)となりました。

〈美容・健康事業〉

株式会社JIMOSは、期初にインフィニティビューティー株式会社を合併したことで売上高が前年同期比増加しました。一方、当第2四半期連結累計期間に化粧品通販の自社ECサイトにおいて使用しているサーバーへの不正アクセスが発覚し、2019年8月よりECサイトを停止、新規取扱や定期購入を一時的にストップしたため、売上高増加幅は上記合併効果を相殺し、小幅にとどまりました。営業損益については、ECサイト停止により計画していた広告宣伝費及び販売促進費を使用しなかったことで前年同期比同水準となりました。

株式会社ベルエアーでは、主力商品である栄養補助食品の販売網拡大に努め超高齢社会を見据えた新サービスの開発に取り組みました。顧客数が趨勢として減少しており、売上高は前年同期比減少したものの、一般管理費の縮小により営業利益は増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高4,752百万円(前年同期比5.7%増)、営業損失は94百万円(前年同期営業損失99百万円、株式会社JIMOSと株式会社ベルエアーののれん償却費等283百万円を含む)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債および純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産総額は、48,370百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,256百万円減少しております。これは主に、住宅事業の未成工事支出金等が991百万円増加した一方で、受取手形・売掛金が1,019百万円、販売用不動産が1,296百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債総額は、29,488百万円となり、前連結会計年度末と比べ22百万円増加しております。これは主に、工事代金の支払等により買掛金が2,461百万円減少した一方で、未成工事受入金が1,921百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産額は、18,881百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,279百万円減少しております。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上と配当の支払により利益剰余金が1,286百万円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金という」)残高は、前連結会計年度末に比べ561百万円減少し8,606百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は、693百万円となりました。これは主に未成工事受入金の増加1,921百万円に対して、仕入債務の減少2,559百万円、税金等調整前四半期純損失299百万円等により資金の減少があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は、927百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出421百万円、投資有価証券の取得による支出330百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は、1,059百万円となりました。これは主に長期借入金による収入3,000百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2019年5月15日に公表いたしました2019年3月期の連結業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,168	8,607
受取手形及び売掛金	4,739	3,720
商品及び製品	2,609	2,998
販売用不動産	8,443	7,146
未成工事支出金	2,149	3,140
原材料及び貯蔵品	430	437
その他	4,122	4,540
貸倒引当金	△87	△90
流動資産合計	31,575	30,499
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,944	6,989
土地	2,192	2,192
その他(純額)	2,320	2,137
有形固定資産合計	11,457	11,319
無形固定資産		
のれん	1,305	1,053
その他	1,243	1,184
無形固定資産合計	2,549	2,238
投資その他の資産		
差入保証金	2,338	2,339
その他	2,034	2,347
貸倒引当金	△463	△481
投資その他の資産合計	3,908	4,205
固定資産合計	17,916	17,763
繰延資産		
株式交付費	134	106
繰延資産合計	134	106
資産合計	49,626	48,370

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,049	4,588
短期借入金	4,390	4,340
1年内返済予定の長期借入金	1,970	2,260
未払法人税等	793	397
未成工事受入金	3,620	5,541
賞与引当金	816	903
引当金	358	339
その他	4,412	3,617
流動負債合計	23,410	21,988
固定負債		
長期借入金	3,205	4,855
引当金	16	10
退職給付に係る負債	203	201
資産除去債務	878	917
その他	1,751	1,515
固定負債合計	6,055	7,500
負債合計	29,465	29,488
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,729	6,729
資本剰余金	3,877	3,877
利益剰余金	11,653	10,367
自己株式	△1,309	△1,309
株主資本合計	20,950	19,664
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	73	77
繰延ヘッジ損益	△2	-
土地再評価差額金	△860	△860
その他の包括利益累計額合計	△789	△782
純資産合計	20,161	18,881
負債純資産合計	49,626	48,370

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	37,835	41,690
売上原価	22,087	25,832
売上総利益	15,748	15,858
販売費及び一般管理費	16,952	16,087
営業損失(△)	△1,204	△229
営業外収益		
受取利息	3	4
受取配当金	2	2
業務受託手数料	13	21
その他	70	69
営業外収益合計	90	97
営業外費用		
支払利息	45	40
和解金	28	43
株式交付費償却	-	27
貸倒引当金繰入額	15	11
その他	17	21
営業外費用合計	106	144
経常損失(△)	△1,220	△277
特別利益		
店舗閉鎖損失引当金戻入額	-	37
特別利益合計	-	37
特別損失		
固定資産処分損	7	14
関係会社出資金評価損	3	-
その他	-	45
特別損失合計	10	60
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,231	△299
法人税、住民税及び事業税	498	391
法人税等調整額	△730	8
法人税等合計	△232	400
四半期純損失(△)	△999	△700
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△999	△700

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失(△)	△999	△700
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	4
繰延ヘッジ損益	2	2
その他の包括利益合計	△0	6
四半期包括利益	△999	△693
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△999	△693
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,231	△299
減価償却費	782	686
のれん償却額	259	284
固定資産処分損	7	14
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5	20
賞与引当金の増減額(△は減少)	89	87
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△10	△37
受取利息及び受取配当金	△6	△6
支払利息	45	40
株式交付費償却	4	27
売上債権の増減額(△は増加)	886	1,019
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,112	△86
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,315	△2,559
未成工事受入金の増減額(△は減少)	3,514	1,921
未払金の増減額(△は減少)	△108	△620
未払消費税等の増減額(△は減少)	△495	30
その他	144	△451
小計	△1,538	70
利息及び配当金の受取額	5	5
利息の支払額	△46	△40
法人税等の支払額	△897	△728
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,476	△693
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△45	△330
有形固定資産の取得による支出	△42	△421
有形固定資産の売却による収入	8	0
無形固定資産の取得による支出	△62	△107
投資事業組合からの分配による収入	6	-
貸付けによる支出	△63	△43
差入保証金の差入による支出	△30	△165
その他	59	140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△170	△927
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	450	△50
長期借入れによる収入	1,500	3,000
長期借入金の返済による支出	△1,605	△1,060
株式の発行による収入	5,291	-
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△0	△586
その他	△352	△244
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,283	1,059
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,636	△561
現金及び現金同等物の期首残高	7,261	9,167
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,898	8,606

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

① 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

i. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリニック事業	レンタル事業	建築コンサル テイング事業	住宅事業	美容・健康 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	6,923	7,142	2,427	16,860	4,481	37,835	-	37,835
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	2	0	0	12	17	△17	-
計	6,925	7,145	2,427	16,860	4,494	37,852	△17	37,835
セグメント利益又は損 失(△)	458	946	197	△2,195	△99	△691	△512	△1,204

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△512百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額24百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△537百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

ii. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

② 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

i. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリクラ事業	レンタル事業	建築コンサル ティング事業	住宅事業	美容・健康 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	6,568	7,310	2,584	20,494	4,732	41,690	-	41,690
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	1	-	0	20	22	△22	-
計	6,570	7,311	2,584	20,494	4,752	41,713	△22	41,690
セグメント利益又は損 失(△)	302	945	252	△1,088	△94	317	△546	△229

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△546百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額22百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△569百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

ii. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

3. 補足情報

受注の状況

(単位：百万円)

セグメントの名称	受注高		受注残高	
	前第2四半期 2018年4月1日～ 2018年9月30日	当第2四半期 2019年4月1日～ 2019年9月30日	前第2四半期 2018年9月30日現在	当第2四半期 2019年9月30日現在
住宅事業	20,872	17,902	27,393	22,225